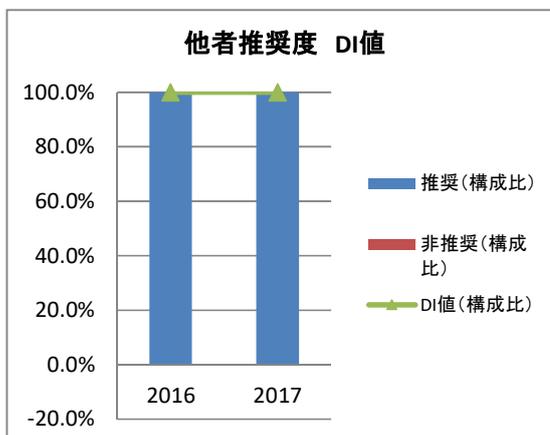
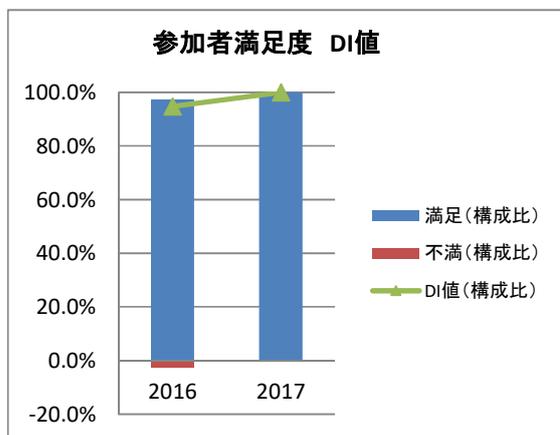


財団指定調査課題事業

<事業概要>

大学コンソーシアム京都の調査機能の強化、事業の新規開発・高度化、加盟校への有為な情報提供等に資することを目的に、2015年度から指定調査課題を設定し、専門分野の研究者による調査研究を行っています。10月に中間発表会、3月には成果報告会・交流会を開催し、加盟校の教職員のみならず、広く全国の大学関係者、企業関係者、一般の方へ成果を公開します。



参加者満足度

	2016	2017
満足(名)	37	4
不満(名)	1	0
満足(構成比)	97.4%	100.0%
不満(構成比)	-2.6%	0.0%
DI値(構成比)	94.7%	100.0%
参加者数(名)	423	18

他者推奨度

	2016	2017
推奨(名)	34	2
非推奨(名)	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%
参加者数(名)	423	18

<参加者の声>

- 多面的な情報を得られた
- コーディネーター業務の整理を本学と比較し、採用しなければならない項目がいくつかあり参考になった
- コンソーシアムということで、一大学だけでなく他大学等の情報共有ができることが魅力だと感じた
- 非常に有意義な報告会であった

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 成果報告会における1グループあたりの発表時間・質疑応答時間を、もう少し潤沢にとってほしいという意見について、翌年度より発表時間を40分、質疑応答時間を15分として対応している。年度ごとの開催状況と調整しつつ、できるだけ深い理解と質疑応答が可能な報告会を実施したい。
- 本調査が加盟大学にとって非常に有意義なものであると好評を得ていることから、2019年度より、教員研究者だけでなく、大学職員のグループからも調査研究に参加できることとし、教職員の協働でできるだけ広い見地から研究を行っていただくことが可能となった。

※2018年度は未実施

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>